

見る機会をこうしてふやす

前に、「漢字教育より先にすべきことがある」という批判をする人が多いけれども、それに対しては、「漢字教育は、先にすべきその教育を漢字でするのです」と答えるのだと申しました。“先にすべきもの”とは、集団の中での幼児の生活の確立とか、情操教育とか、そういうことを指しているのかと思います。

ところで、わたしたちのいう漢字教育というのは、漢字そのものを教えるのではなく、上のようなことがらを指導するに当たって、そのポイントになる言葉を漢字で示しながら話を進める教育なのです。

たとえば、廊下や道路での“右側通行”の話をする場合でも、ただお話するよりも、これらの漢字をカードに書くなり、黒板に書くなりして、聞いている子どもたちにこれを見せながら話すのです。

子どもたちに身近なことがらを表わすこの程度の漢字は、ほとんどの子どもがすぐ覚えます。また話そのものも、ただ話した場合よりも、漢字が示されたことによって、子どもたちの意識を集中させ、話の内容を鮮明に印象づけます。

しかも、もしその翌日、同じようにしてこれらの文字を見る機会を与えるならば、特に教えなくても無言のうちに、前日の“右側通行”の話が子どもの心によみがえり、ひとりでの復習され、“右側通行”の生活指導が徹底されるのです。